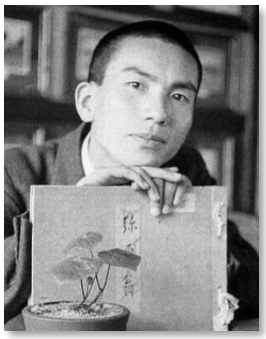
真野小だより

児童数：４６９名
Ｎｏ．２０
令和４年２月１日発行

学校教育目標『あかるく　やさしく　たくましく』

若い童話作家の作品から思うこと



若い童話作家は、数は少ないのですが心に残る詩を書きました。例えば、「おかあさんたちは／みんな一つの、天国をもっています」で始まる「天国」という詩。どのお母さんももっている「やさしい背中」。あっちこっち揺れながら、そこで赤ちゃんは眠る。「子どもたちはおかあさんの背中を／ほんとの天国だとおもっていました」

「若い」この童話作家は２９歳で世を去りました。短い作家人生ながら、後の世に長く読み継がれるたくさんの作品を残しました。「ごんぎつね」「手袋を買いに」「おじいさんのランプ」など題をあげるだけで「ああ、あの」と名の浮かぶ作家、新美南吉(１９１３～１９４３年)です。

南吉の母親は病弱で、彼が４歳の時に亡くなっています。冒頭の詩には「母の背」への深い愛惜の情と幼子への優しい眼差しが滲んでいます。彼の作品の殆どは、彼の死後、世に出たものです。そういう意味では、彼が好きだった宮沢賢治や同時代の詩人金子みすゞに通じるところがあります。

彼の作品の中で最も有名なのは「ごんぎつね」だと思います。保護者のみなさんも小学４年生で学習されています。この作品は、彼が１９歳の時に書きました。「ごんぎつね」は昭和３１年から４年生の国語の教科書に載り続け、昭和５５年からは全ての教科書会社の教科書で採用されています。ですから全国の４年生が学習しています。そして、これまでに６千万人が小学校で習ったと言われています。まさに国民的童話です。

さて、ご存じのようにこの「ごんぎつね」という作品の最後は、ハッピーエンドではありません。とても悲しく辛い終わり方です。世の中には、尽くしても尽くしても相手に理解してもらえないことがあります。すれ違いや不条理の現実に触れることは自分の悲しみや不満にばかり囚われず、相手の気持ちを思いやる優しさをもつ第一歩となる気がします。「ごんぎつね」には、ゴンの最期の気持ちもその後の兵十の行動も書かれていないので、どのように読むこともできます。それがまた魅力であり、私たちは「ごんぎつね」からいろいろなメッセージを受け取ることができます。そこに、半世紀以上にわたって教科書に載り続けても、なお色あせない秘密があるのだと思います。

もうひとつ、南吉の童話で心に残る短編があります。「でんでんむしのかなしみ」です。ある日、一匹のでんでん虫が自分の背中の殻の中に悲しみがいっぱい詰まっていることに気づき、それを友だちに訴えて回るものの、どの友だちからも「あなたばかりではない」と言われ、最後に悲しむのを止める、という物語です。自分の悲しみばかりに囚われて、それを人のせいにしたり、その不満を他人や社会にぶつけたりする人が増えています。「悲しみは誰でももっているのだ。私ばかりではないのだ。私は私の悲しみを堪えていかなければならない」というこの作品は、大切なことに気づかせてくれます。悲しみをもつ者は他人の悲しみを理解することができる、他人の悲しみに目を向け、労りの気持ちをもつことで、悲しみを分かち合い、同時に悲しみと共に生きる強さも生まれるのだと思います。人と人との本当の絆はこうして生まれ、結ばれ、強くなっていくものです。

読書は人を優しくします。読書を通じて、様々な人生に触れ、人の思いに触れ、共感したり、批判的に読んだりする中で、人を思いやる心や感動する心、自分の思いや考えが育ちます。ですから、子どもたちには大いに読書に親しみ、いろんなジャンルの本を手に取って欲しいと思います。そして、国語の時間には、じっくりと作品に向かい合い、自分の思いや考えをしっかりと学級で交流して欲しいと思います。その中でいろいろな人の思いや考えに触れ、自分の考えを深めてくれれば、と願っています。

力を合わせてこの大きな波を乗り切ろう！

世間が新型コロナウイルス感染症の第６波に突入したと思ったら、本校もその大きな波に飲み込まれています。状況は、先日来メール配信等にてお知らせしているとおりです。「我慢の時」だと思います。少しでもこの波が早く過ぎ去るように、そして、波がこれ以上大きくならないように願うばかりです。

先日、全校児童に向けて、もう一度感染対策をしっかりすること、そして、感染者の人権に配慮することについて、放送で呼びかけました。

以下、その内容です。

真野小学校の子どもたちは、新型コロナウイルス感染症にかからないように、マスクをしたり、手洗いや消毒をしたり、３蜜を避けたり、日頃から気をつけて生活しています。それでも、感染してしまうことがあります。これだけ感染する人が増えていますから、仕方ありません。

真野小学校ではみなさんも知っているとおり、いくつかの学級が学級閉鎖になっています。真野小学校の緊急事態です。

新型コロナウイルスに感染してしまうことは、決してその人が悪いのではありません。感染することが悪いことのような雰囲気がみんなの中に広がると、感染したことを疑われることを恐れて、からだの調子が悪くても無理に登校してしまったり、がまんをして病院に行くのが遅くなってしまったりして、逆に感染を広げてしまうことになってしまいます。誰もが感染してしまう可能性があります。しっかりと感染対策をしている自分も感染するかもしれないのです。感染しても誰もせめられることではありません。陰でうわさ話をしてもいけません。

みなさんも学校をお休みすることがありますね。頭やおなかが痛かったり、怪我をしたりと理由は他にもあります。お休みをした人に対して、どんな気持ちをもてば笑顔あふれる学校になるでしょうか。自分の大好きな家族や友だちだったら、きっと「早くよくなってね」「元気になって、また一緒に遊ぼうね」と思うのではないでしょうか。どんな理由でお休みする人にも、同じ気持ちで思いやる人になって欲しいです。

これから話す３つのことをしっかり頭に入れておいてください。

- 誰もが新型コロナウイルス感染症になってしまう可能性があります。
  だからと言って感染対策をしなくてよいのではありません。自分ができる限りの感染対策をきちんとやります。特にマスクはしっかりします。鼻も口も覆います。マスクを外すのは、給食を食べるときと、例えば音楽で楽器を演奏する時だけです。
  マスクをきちんとすることは、自分のためでもあるし、大切な家族、友だちのためでもあります。
- 完璧に感染対策をしても感染することがあります。
  だからと言って感染した人が悪いわけではありません。
- どんな理由であってもいじめや差別は許しません。
  コロナ以外のことでもそうですが、コロナのことで、変なうわさ話や陰口、悪口を言うことは、許せない行為です。

これからも真野小学校のみなさんは、家族のこと、友だちのこと、学級のこと、学校のこと、地域のことを大切にできる子どもでいてほしいと願っています。

笑顔あふれる真野小学校になるように、これからもみんなの思いやりの心をいっぱいにして、緊急事態を乗り切っていきましょう。

随時更新しています！真野小学校Webページをご覧下さい！

学校行事や学習活動の様子を随時紹介しています。是非ご覧下さい。

真野小学校　検索

ＵＲＬ：http://www.otsu.ed.jp/mano-e/